

目

次

南洋の獨逸領	教授	西村 万壽
學級教授の能率	一、三	伊藤 ふき
教育の根本問題		中村 春二
批評(第十號)	S.	尾上 八郎
冬の朝日		安永 みち
葛飾の歌	一、四	廣田 貞子
春の日	一、二	A. B. C
港・旅行・母・務・初冬・夕ぐれ	一、二	
■ 雜報 □ 第三十一回學術談話會記事 □ 會計報告 □ 會員動靜 □ 幼稚園日記 (菜の花) □ 教生の窓より (いづみ) □ 圖書室の一隅より □ 中等教育に於ける作文科 □ 獨逸の新大學 □ 中等教育に於ける時間經濟 □ 良妻は銅像の基を築く		
■ 第一回學術談話會總會編輯の後に		
■ 研究 □ 大正三年に於ける文科に關する學術進歩の大勢 (第一・第二)		

南洋の獨逸領

緒言

西村 万壽

太平洋中に星羅せる幾多の小群島は大別して三とす(一)メラネシア Melanesia は黒人島の義、ニューギニア島より東方フキジイ群島に至る諸島(二)ミクロネシア Micronesia は小群島の義にして、前者の北に基布シフキリッピン群島の東にあるバラウ群島、カロリン群島、マリアナ群島、マーシャル群島の諸島(三)ポリネシアは多數島の義にして、前兩者の東に散在し北はハワイ群島より南はラバ島に至る諸島にして、氣候熱帯に屬し湿度高く天與の産に富む安樂國たりしが、十九世紀の末葉より歐米列強の國旗翻りて爰に其惰眠より喚起せり。

右諸島の歐人に知られしは一五二二年マリアナ群島發見に濫觴を發し、英國のオーストラリア大陸に其基礎を定めてより以來蘭、獨、英、佛の諸強大小の群島を獲得せり、蓋し十九世紀の中葉以後にして歐洲諸國の海外發展の最後の幕に屬す、然して獨逸の發展は他列國より後れかの普佛戰爭後は專心國力の充實と國內統一に意を注ぎ他を顧みざりしが現皇帝位に即きてより從來の政策を更め、大に海外殖民地の獲得に腐心し征服に購買に次第に其領土を擴め、亞弗利加及太平洋にある殖民地の總面積實に本國の五倍に垂んとす。

大太平洋中にある獨逸領土を擧ぐれば次の如し。

(一) ミクロネシア

(イ) マリアナ群島

(ロ) カロリン群島及びバラウ群島

(ハ) マーシャル群島

(二) ポリネシア

(ニ) サモア群島の一部

(三) メラネシア

(ホ) カイゼルウイヘルムランド

(ヘ) ビスマーク群島

(ト) サロモ群島の一部

以上の諸島は實に一八四四年ヨリ一八九九年の間に獨逸の獲得せしものにして、其總面積二四三八一九平方糎我本州、四國の面積より稍大なり、其人口土人數六三五〇〇〇白人數二千あり。

(獲得年代は山上理學士のアフリカに於けるドイツの殖民地參看)

(2)

一) ミクロネシア (Mikronesia)

(イ) マリアナ群島 (Marianne islands)

位置及面積

本群島は北緯二三度より同二二度、東經一四五度より同二四六度に亙り、南北に弓形を爲して配列し、我國硫黃諸島に甚だ近接し、實に富士火山帯の起る處なり、其總面積一一四〇平方糎なるが、群島中の大島グアム島(五一〇平方糎)を除きて六三〇平方糎を獨逸領とす、主なる大島はロタ島(Rota)チニアン島(Tinian)ザイバン島(Saipan)なり、北部の小島嶼は實に火山島にして活火山多くファアラロン・デ・バヤ

ーロ島(Panalon de Pajaro)アンソング島(Assongsong)(高六四〇)ンガンヌ(Pagan)アラヤガン島(Al-amagan)(高七〇〇米)は著しきものなり、南部の島も多く火山岩にして、珊瑚礁にて圍繞せられ甚だ高からず。

氣候

熱帯氣候なるも海風の爲に大に緩和せらる、米領グアム島(Guam)に於て一年平均攝氏二六度七、六月平均攝氏二七度九十二月平均二五度四なり、最高平均攝氏三二度二、最低平均攝氏一八度九なり、北東貿易風帯に屬す、十月より六月の間には東風多し、雨量は三〇〇〇糎内外にして、降雨は六月より十一月の間に多く、十一月より五月の間は少し、ザイバン島のバラガンに於ては三年間の平均二〇〇〇糎の雨量ありたり、時に颶風の襲來あり。

生物

植物界はインド、マライ區のもの多く、低地には鬱蒼たる森林叢林多く、乾期に於て燒かるゝ事多し、動物界は其種類甚だ少なく鹿、牛、は皆て西班牙人の輸入せるものにして良く繁殖し、野生となりしもの多く土人の爲に狩らる、鶏亦よく飼養せられ土人の珍味たり、野生には蛇蜥蜴、海陸の鳥類多く、海に鼈多し。

沿革

本群島は一五二一年マゼランの發見せし處にして、其土人の盜性ありしよりラドーン島(Ladone)(盜賊島)と命名せし處なり、一六六八年西班牙人本群島の所有權を獲得し、ヒリップ三世の皇后の名譽としてマリアナ群島と命名せり、一八九八年彼の米西戰爭中已に米國の古領せしグアム島を除きて八四〇〇〇〇磅を以て西班牙より獨逸の購入せしものなり。

住民

本島固有の住民はカロモス(Charroms)と稱せらるゝものにしてミクロネシア人と少しく異なる

(3)

種族なりしが西班牙の領有の時代に於てフィリピン群島よりタヤレン族 (Tajalen) なるものを輸入し該種と混じ純粋なる種族大に減少せる處あり、此のカロモス族の遺跡はチニアン島、ロタ島、グアム島に等ありて二列に配列せる石柱は實に其昔の文化を語れるものなり。

獨逸領に於ける住民の數は二六四六人 (一九一二年の推算) 多く南部の諸島に住し北部群島は火山島にして無人島なり注民の生業は薯根、馬鈴薯、甘蔗、コ、椰子、玉蜀黍を耕作せり。

都邑 獨逸領ニューギニア即ちカイゼルウキルヘルムランド政廳の管轄にして其支配所はザイバン島タナバグ (Tanapag) にあり、タナバグは又主要港にしてヤールイト會社の汽船本港とシドニー港及び香港との聯絡を主れり。

(ロ) カロリン群島及バラウ群島 (Caroline island and Pelow or Palau islands)

位置及面積 マリアナ群島の南に東西に星羅せる群島にして、北緯一度より同一一度東經一三二度より同一六三度に互り、總面積一四五〇平方糎、多くは珊瑚礁より成り、西をバラウ群島東をカロリン群島と稱し後者は東西の二部に分つ、主なる大島はバラウ群島中のバオベルタオブ島 (Baobeltaob) は三〇〇平方糎、最高六〇〇米あり、西部カロリン群島中のヤブ島 (Yap) は二一〇平方糎最高三〇〇米、ツルツク島 (Truk) は火山島にして玄武岩より成り一二〇平方糎最高四〇〇米あり、東カロリン群島中のポナベ島 (Ponape) は三〇〇平方糎表面低平なり、トロコルム島 (Tokolm) は最高九〇〇米に達す、本群島の最東部にあるクザイエ島 (Kusaie) は二一〇平方糎にして平坦なり、然してバラウ群島は燐礦に富めり。

氣候 本群島亦熱帯にして海風の爲に氣温緩和せらる、氣温前群島と大差なし、雨量に最東部のクザイエ

島に於て六五〇〇耗の大量あり、其降水日數實に二八〇日なり、ポナベ島に於て五二〇〇耗ヤブ島に於て三五〇〇耗バラウ群島のマラカル島 (Malakal) は小島なるも最五〇〇米にして雨量二六〇〇耗あり、即ち一般に西部より東部に多し、降雨は北東貿易風の季節年始年末に多し北西季候風と貿易風の交換期に於て時に颶風の襲來あり。

生物 植物界はフィリピン群島に似てバラウ群島の南部には針葉樹多し、動物は少なく特に哺乳類に乏し陸島多し海生動物及蛇蜥蟻の類多きは前群島と同じ、印度に似たり。

沿革 本群島は一五二七年葡萄牙のデエゴ・デ・ロチャ (Diego de Rocha) の發見せし處にして一六八六年西班牙人ロセアノー (Lozano) カロリン群島と命名せり、爾來基督教傳道者屢來り、一八八五年西班牙の領有となりしが、一八九九年獨逸の領有する處となれり。

住民 此最爾たる小島の住民は所謂ミクロネシア人にして、皮膚の色黄黒の二種なるが、人類學上別種のものに非ず、元來バブア人とポリネシア人の雜種にして、其風俗、習慣兩者に偏せるもの多し、其住所は前に述べたるが如く多くは珊瑚礁にして土地肥饒ならず、從て食物に乏しく營養充分ならず爲に體格甚だ不整なり、毛髪は捲毛なるもの平滑なるものあり、廣鼻、厚唇、顔面顎共に廣し、元來衣服を有せず、只犢鼻褌のみにて、又前垂にて前面を覆へるものあり、衣服は木葉樹皮の總を以て作る恰も我國の蓑の如し、東部に於ては歐風の衣服を着せるものあり、割青は今尙行はる、一般に顔面身體に黄色の顔料を塗抹し、頸飾、腕輪、抹額、耳飾、頭飾をなす事バブア人と同じ、此れ等の粧飾品は十枚乃至二十枚の長齒を有する木櫛、羽毛、草花、介殼を以てす。

家屋は屋根は頗る急傾斜にして椰子等を以て葺き、其破風に彩畫をなせるものあり、ヤブ島には石を以て基礎となせるものあり、大家族の家はブライス (Bays) と稱し長さ三〇米幅六米にして稍永久的のものなり。ボナベ島ヌガチック島 (Nugatic) に於ては古來の大なる石造家の現存せるものあり。其建築法明ならず。食物はバン樹、檳榔樹、椰子樹、芭蕉等の果實諸芋の根塊、甘蔗の莖等と魚介、鼈、鼠、豚、山羊、犬等にして後者の豚犬等の肉は蓋し珍味なり、鹽味は海水より取れり、其食物たる諸芋の畑は一般に美麗に耕作せらる。

本群島の住民は戰爭鹹首を廢してより以來漁獵農耕を事とし、前述の農作物の外に煙草及び胡椒棉等を栽培せり、鶏豚の牧者多少行はる、製作業は陶器、蓆、網等なるが、歐洲文明の輸入と共に退歩せり、古來よりの武器は、木刀、槍、擲石帶等も已に新しき火器によりて補充せらるゝに至れり。

船は獨木船にして檣は竹にて作り遠海を航行せしも、近來次第に少くなれり、獨木船は他の太平洋諸島も一般に使用するものにて、大木を鑿りて浮泛力を増し、一方船側より横木數本を出し之れに船形の丸太を緊結し、轉覆を防ぎ、大なる帆を擧げて快走す、其操縦は諸島に於て巧拙あり。

パラウ島の貨幣は甚だ奇にして磗狀の直徑一米内外の石、眞珠貝、天然玻璃、燒きたる土等を用ひ居れり。カロン群島の土人は極めて温情あるを以て知られ祖先を崇拜す、崇拜の儀式は僧侶之れを率る。

土人には會長、自由民、奴隸の三階級あり、奴隸は特殊の部落に住せり、パラウ群島に於ては女子に特權ありて戰士の俱樂部と僧侶の組合を有せり、會長は獨乙の治下に於て司法權の一部を有せり、全人口は一九一三年の推定に依ればマリアナ群島を合せて土人五五〇〇人にして、白人二六四人中一五四人は獨乙人なり。

政治貿易等 行政上の區劃は東經一四八度を界とし、東をマリアナ群島、東カロリン群島とし、其支配所をボナベ島に置き、西を西カロリン群島、パラウ群島として、其支配所をヤブ島に置き、ニューギニアの政廳に屬す、貿易は一九一一年輸入額二七二六〇〇マルク、輸出七九一七〇〇マルクなり、貿易は主にヤールイト會社之れに従事し、其附屬汽船シドニー及び香港とを連絡せり、近年北獨逸ロイド會社の汽船來航するに至れり。

(ハ) マーシャル群島 (Marshall islands)

位置及面積 一五二九年アルバロ、デ、ザベートラの發見せし處にして北緯四度三〇分より同一四度四五分東經一六一度より同一七四度に亙り、北北西より南々東に配列する二列の群島なり、東の島列をラタック (Ratak) (日の出群島、西の島列をラリック (Ralik) (入り日) 群島と稱す、前者は一五島 (二二〇平方糎) 後者は十八島 (二七〇平方糎) より成る。

大島はヤールイト島 (Jaluit) (又ジャルート) 最大にして九〇平方糎、アルノー島 (Arno) マヌロー島 (Majuro) 各二〇平方糎、マラクラフ島 (Malakal) ミルン島 (Mille) 各一〇平方糎なり。

全群島珊瑚礁より成り、特に環礁多く内に潟を構へ、大なるものは幅一〇〇米深さ五〇米に達せるものあり、高さは珊瑚礁なるを以て一米乃至四米に過ぎず。

氣候 熱帯にして湿度高し、平均氣温はヤールイトニ於て年平均攝氏二七度、一月平均攝氏二七度二、七月平均攝氏二六度八度高平均攝氏三四度三最低平均攝氏二二度三なり、一般に東風多く十二月より四月まで北東貿易風あり、五月より十一月まで東風又は南東風卓越す、雨量はヤールイトに於て四五〇〇糎あり、多

雨の時期は三月、五月、十二月にして他の月は多少少量なるも決して乾燥する事なし、地盤の珊瑚礁なるを以て一つの泉水なく雨水を溝に湛へて飲料に供す。

生物 植物界はインド、マレイ區に似てコ、椰子、バン樹、タコノキ、芭蕉、蕃瓜樹、レモン等あり、動物は甚だ乏しく蜥蜴、大蟹あり海生のもの乏しからず。

住民 住民はミクロネシア族にして、皮膚濃褐色と橙黄色にして、毛髮黒く、廣鼻、大口、齒牙堅牢にして齒列よろしく、割青の風は他の諸島と同じ、男子老衰し易く、女子の身體矮小なりバン樹、芭蕉、薯根、椰子樹の果實を食す、魚介も亦食用に供す、煙草は甚しく愛喫す、女子はタコノキの織物を纏へり、家は長さ八米奥行五米の小屋にして、屋根は急傾斜の簷低く地上一米餘に過ぎず、石刀、石槍は古の武器なり職業はタコノキの織物を作り漁獵をなす、漁舟は獨木舟にして大なるものは四十人を入れるべく、三角帆を張りて快走し、時々隊をなして遠航し操縦甚だ巧なり。

住民に四つの階級あり、大酋長、酋長、自由民の定住あるものと定住なきものとあり、土人數一五〇〇白人一七九人にして内獨逸人九一人あり。

政治産業 一八八六年獨逸の獲得する處となりハンブルグの商人ヤールイト會社なるものを設立し、専ら本群島の經營せし處なりしが、一九〇六年四月一日獨逸政府の管理に屬し、ニューギニアの政廳に屬し、支配所はヤールイトにあり、産業貿易は一つにヤールイト會社の手中あり現今椰子栽培地一、二七五エーカーあり、主要なる産物はコブラ、燐礦なり。
ナムム島には無線電信局あり。

一) ボリネシア (Polynesia)

(1) サモア群島 (Samoa or Navigators' islands)

位置面積 南緯一三度四五分より同一四度三〇分西經一七二度四五分より同一六八度一〇分に互り、東南東より西北西に配列す、大島はサバイ島 (Savaii) 一七〇〇平方糎、ウボル島 (Upolu) 八八〇平方糎、ツツイラ島 (Tutuila) 一四〇平方糎にして、最東の小島珊瑚礁にして、他は火山島なり、サバイ島は最高一六〇〇米、マヌア、ツツイラ、ウボルの三島は高さ七〇〇米あり、各島珊瑚礁にて圍繞せらる、サバイ島には活火山あり、同島のマタバヌ火山は一九〇五年八月噴火し爾來活動せり、此の噴火の際流出せし熔岩流は山麓平野を被覆せり、ウボル、ツツイラの二島又火山あり。

氣候 熱帯なるが暖和にしてアピア (Apia) に於て攝氏二五度三、一月平均攝氏二五度九、六月平均攝氏二四度一なり、十一月より四月まで南東貿易風ありて雨期なり、他の月は一般に乾期とす、此の間東風又は西風あり、雨量はアピアに於て三〇〇〇糎あり年の初に颱風の襲來する事あり。

沿革 一七二二年ロツデビーンの發見せし處にして、一七六八年ブーゲンビューは航海者島と名付けたり一八七八年合衆國と、一八七九年英國と獨逸と通商條約を爲せり、一八八九年ベルリン會議にて英、米、獨逸の自治權を許され、一八九九年十一月十四日獨逸と合衆國とに分割せられ、サバイ、ウボル二島と一二の小島を獨逸領ツツイラ其他を合衆國領とせり。

住民 所謂ポリネシア人にして短顱匾額骨稍突起し、齒牙直く鼻梁大にして、皮膚黃褐色、毛髮粗にし

て鬚髯多からず、目は黒色又は褐色なり、身體は日々洗滌して日々椰子油を塗り、布帛を纏ひ、顔面并に身體に刮青を施せり、又甚しく頭蓋を變形し鼻梁を壓迫し一層仰鼻と爲し、鼻障を貫きて烏羽草花を簪挿す、又上唇を穿ちて石片、牙介等を簪む、食物は豚肉犬肉は珍味とし富裕ならざれば食膳に上す事を得ず、衣服は樹皮紙布を纏ひ、家は方形にして左右に葺下し、簷甚だ低し、内部を蕙簞等を以て數室に分つ、又圓形の集會所等あり、職業は蕙簞織、耕作、牧畜、造船漁業に従事す、貴族平民の二階級ありて貴族の專横甚し。獨逸領に於ける住民の數は土人三五〇〇〇(一九一二年)内サバイ島に一二八一六人、ウポル、マヌア(Manu-ua)アポリマ(Apolima)の三島に二〇六六二人あり白人は五四四人(一九一三年)にして内獨逸人三二九人、英人一三二人あり、支那人一、三五四人あり、教育は獨逸官立の學校と宗教學校ありて初等教育を施せり。政治貿易 本群島の財政は歲出入一、一三〇、〇〇〇マルク(一九一三年)貿易は輸入五、〇〇〇、〇〇〇マルク、輸出五、〇五〇、〇〇〇マルクにして、輸入品は燈用石油食料品にして、オーストラリア、ニュージーランドよりし、輸出品はコブラコ、ア、豆を主要なるものとす。アピア港はウポル島にありて島廳の所在地なり又主要なる港にしてオーストラリア、ニュージーランドと定期航海ありて年々の船舶出入七五〇〇〇噸なり又無線電信局設あり。

(三) メラネシア (Melanesia)

(ホ) カイザーウケルヘルムランド (Kaiser Wilhelm land)

獨逸領の部分は僅かに全島の四分の一に過ぎざるを以てバプア全島に就きて説述すべし。

位置及面積 南緯零度十九分—南緯一〇度四三分に亙り、東經一三一度—二二分—東經一五〇度四八分に亙る、南はトレス海峡を以てオーストラリア大陸に、東はダンビヤ海峽を以てノイボンメルン島に西はジロロ海峽を以てモルツカ群島に對せり、本島の面積七八五、〇〇〇平方料にして、附屬の小島は南にドールガ海峽を以て隔てられたるフレデリックヘンリック島 Frederick Henrik) 西南にアル群島 (Arn) 西にムプア群島、北にゲールヴェインクバイ群島 (Geelvinkbai) 東方にゼントルカスター群島 (d'Entrecasteaux) ワルドラーク群島 (Wardark) ルイジアーデン群島 (Louisiaden) にして之れ等を合すれば其面積八一四〇〇〇平方料あり。

水平肢節 本島は北西より南東に延長し、甚だ水平肢節に富み北西にゲールヴェインク灣、南東にバプア灣ありて、東西に二大半島を突出せり、尙深く彎入せるマククルアー灣 (Mac ebur) は北西半島を二つの半島に分てり、北をベラウ半島 (Berau) 南をオニン半島 (Onin) とす此のオニン半島の南東にカムラン灣 (Kamulan) 深く彎入せり。南東にはミルン灣 (Milne) ギーデノー灣 (Goodenough) コーリングウッド灣 (Collingwood) ダイクアランド灣 (Dyke Adland) の小灣あり、北部にはフーオン灣 (Huon) アストロレーブ灣 (Astrolabe) フンボルト海 (Humboldt) 等あり。

海岸は北東デュールビル岬 (d'Urville) より東岬 (Oskap) に至る間は一般に急崖にして、其間諸處に小平坦の地あり、南東半島の南岸又急崖にして、胴體の南岸は低平なる砂地にして、處々マングローブの生育せるを見る、北西半島に於ては急崖と平地交互に擴がり、四周珊瑚礁多し、南西アレーフル海并に大河の河口に於ては之れを缺く。

地勢 本島山脈多く、北西半島に於ては一般に山地にして、ペラウ半島最高二七四〇米、オニン半島のグノッホ山 (Gnoffo) は最高一八〇〇米なり、エトナ灣頭に於けるチャールスルイス山 (Charles Louis) 山は東方に連互し、高峻にして最高五一〇〇米のスノーマウンテンの秀峰あり、英獨領の境界に於てヱキクトルエマニユエル (Victor Emmanuel) 山脈亦高峻にして三〇〇〇乃至三六〇〇米あり、此の山脈の西部蘭領の地形未だ明ならず、英領には獨領との境界に近く東に走りてムスグレーブ山脈 (Musgrave)、アルバートヱイクトリア山脈 (Albert Victoria)、アルバート山脈 (Albert) より南東半島を横断してオウエンスタンレー山脈 (Owen Stanley) あり、其最高峰ヱイクトリア山は四〇〇八米の秀峰をなせり、海に入りてルイジアーデン島、デントルカストー島に入り、八〇〇乃至一〇〇〇米の高距を保てり。

獨逸領地方に於ては西にビスマルク山脈南東―北西に走り、北西ハンゲン山 (Hangen) (三〇〇〇―四〇〇〇米に連り、西隅ヱイクトルエマニユエル山脈に連る、之れ等の諸山はある季節には雪を以て被はる、ビスマルク山脈の北東に平行せるモルトケ山脈あり、此の北東に尙平行せるフキニステル山脈 (Finistere) のシヨッペンハウアー山 (Shoppenhauser) は實に三三五〇米の高峰なり。

本島の山脈は一般に懸崖絶壁多く、深谷に富み山峯危立裸出せるもの多し。

本島は濕氣多く、雨量多きを以て、河川水量に富み、カイゼルウイヘルムランドに於てフウオン灣に注ぐフランチスカ川 (Franziska)、マルム川 (Markham) 流出し、アストロレーブ灣にはカベナウ川 (Kabenau)、ケチール川 (Kogol) 流出せり、北岸に流出するラム川 (Ramu)、遠く南東クレツケ山より發し、長さ五〇〇〇米、河口に於て其幅四〇〇米あり、カイゼルアウグスタ川 (Kaiser Augusta) 又大河にして、ヱイクトル

エマニユエル山に發し、ラム川の河口に近く流出せり、蘭領に於ては北岸にアムベルノロチユーゼン川、ヱルビル岬の附近に排出せり、英領に於てはフリオゲベル川 (Flio-Gewer)、主なるものにして、ヱイクトルエマニユエル山に發し、長さ八〇〇米にして下流小蒸氣船を通じ、内地進入の通路たり。

本島を構造する岩石は始原界岩石廣く分布し、古期噴出岩は金を含み、古生界の粘板岩、石灰岩、砂岩あり火山岩各處に噴出岩、北岸に沿ひては二三の活火山あり、ハンサ火山 (Hansa) の如き其一つなり、又各所に隆起せる珊瑚礁あり。

氣候 熱帶氣候にして、平均氣温の冬夏の較差甚だ少なく、一般に北岸は南岸より稍低温なり。

	年平均	最温月	最寒月	最高平均	最低平均
北岸	二六、一	二六、六(三月)	二五、三(八月)	三三、五	二〇、二
南岸	二六、九	二八、二(十二月)	二五、三(八月)	三六、七	二二、六

氣壓は一般に低く年中風多く、五月より十月(南方の冬)には南東貿易風あり、其他の月(南方の夏)には北西季候風あり、南東貿易風の季節一般に雨多く、アストロレーブ灣よりフウオン灣の間特に著しく、北部と南の一部亦然り、他の地方に於ては此の季節雨少なく、乾燥せり、雨量は蘭領のドレーハーフェン二一五〇耗、ハツツフェルトハーフェン二四五〇耗、コンスタンチンハーフェン二九六〇耗、フィンシユハーフェン二七三〇耗にして、西方には四五〇〇耗、以上の地方あり、低地には時々大雨の地あり、フレデリツクウキルヘルムハーフェンとコンスタンチンハーフェンとの間のマラガシタイム島に於て六五〇〇耗の大量あり、内地は其量明ならず、嘗て英領ギニアの總督たりしマクグレゴール (MacGregor) はオーエンスタンレー山に於

て五六月の頃二四〇〇—二六〇〇米の高所に於て、全く乾燥せりと云へり。

●生物 氣温の高き事と雨量多き事とは本島の植物の生育を盛んならしめ、熱帯林繁茂す、南北兩岸のある部分はマングローブ生育せり、山坡にては椰子樹、灌木寄生植物、空氣植物攀木植物、よく發育し、内地には熱帯闊葉樹林繁榮を極め、殊に垂直的には九〇〇米—一〇〇〇米まで灌木、羊齒植物、空氣植物を主とし二〇〇〇米以上には針葉樹、竹等ありて、羊齒植物、蘚苔類を混す、最高の地方に於ては多少高山植物を認むることを得。

雨の少ない南方の低地に於てはユウカリ樹、サバンナあり。以上植物界を通覽するに、ズンダ諸島のもの多く、又固有のものを有するを以て之れをバブア區とす、南方はオーストラリア區に屬するものなり。

動物界に於ては、元來哺乳動物少なく、二三の嚙齒類、二十三種の蝙蝠類あり、海には一種の海牛あり、有袋類は甚だ多く、四十種を算すべし、鳥類は非常に富み、鸚鵡、インコ、カハセミ、極樂鳥等多く、其美なる羽毛は土人頭髮の飾となし、其皮は商品となる、又其羽毛も歐人の帽子の裝飾品として輸出せらる、昆蟲類亦多く、疥蟲類には有毒なる、蛇類及び蜥蜴類あり、四種の龜類、一種の鰐魚あり、海には魚類、貝類に富む。

以上動物は二つに分ち蛇類は東印度諸島に住するものにして、有袋類はオーストラリア特有のものたり。

即ち本島は地勢上アジア及びオーストラリア大陸の飛石の状をなせるが如く、生物界に於ても又一つの間ものたり。

●ピスマーク サモロ群島の生物は本島に同じ。

●住民 マライ語にてバブアと云ふは縮髮の人の義にして、ニューギニア及び其他附近の諸小島に住する黒

人種の總稱とす、メラネジアンなるもの之れなり、本島に於ては西よりは馬來人、南東にはポリネジアンの影響あるを以て、海岸には純粹のもの少なく、雜種なるも、只山地には純粹固有のバブア人なるものあり。

皮膚の色は黒色なるもの、鮮明なるものあり、又多少濃き褐色のものあり、嘗て本島を探檢せしフィンシユ氏は此の黒色人の間に生れし、白色の子女ありと云へり、種族は部落に分れ其の一部落のものも皮膚の色は個々多少異なれり。

毛髮は始め直なるも、稍延びて縮毛となり、螺旋狀に生長し、適當の長さに至れば尖端縮れて小塊をなし之れを總となし、黄、白、赤の顔料を用ひて之れを染め、花、羽毛、介殻を以て之れを飾れり。

南東の地方のものは鬚髯を抜き、屢眉毛をも抜き去り、皮膚を極めて滑澤にし、顔料を塗抹す、多くは赤色顔料を用ゆ、此の顔料の塗抹は種々なるも、最も普通なるものは額より頸に向て一縦線を描きて兩頬に亘りて二横線を描き、兩眼の周圍に白色の環を描く、時に頸毛を去りて其化粧すべき部分を多からしむ、尙粧飾としては牙貝等を以て腕環、耳環、頸環を施し、又鼻障を穿ちて純白の犬牙を簪挿せるものあり、又抹額を施し粧飾到らざるなく、世界第一の粧師家たり、若き男子は女子よりも粧飾多し。

元來裸體にして、コ、椰子、サーゴ樹の葉を以て衣服とし、又腰部を被へるものあり、今日は歐風の衣服を着せるものあり、刮青は多く施さるも皮膚に搔痕を附して粧飾とせり、刮青の法は椰子殻を燃焼して製したる煤烟を以て花紋を畫き、荆棘を以て皮膚を刺すにあり、其苦楚知るべし。

飲食物はパンの實、芭蕉子、薯、芋等の類を客とし、豚、鶏、鼠、亀、蟹介類を食す、火は木片を磨擦して生せしめ、煙草は白人の來る以前より男女之れを用ふ、嘗て食人の風ありたり。

貧富は其携帯せる粧飾品にて知る事を得、家具は木製のもの、土製の壺、寢床、石斧、貝製牙製の道具を用ひ、金屬製を知らず、恰も石器時代の如し、弓矢は重要な武器にして、矛、槍、棍棒、楯を用ひ、此れ等の武器又赤色に塗り、又は精巧なる彫刻を施し、其意匠見るべきものあり、家具の彫刻せるもの亦同じ土器の製造はフィジー群島以西にして、東には之を認めず。

家屋の形状は大小種々にして、一般に家屋は急傾斜に垂れ、船小屋の如く、棟梁の高さ五・六米、間口四乃至七米、奥行四・一〇米にして長方形なり、椰子葉、雜草にて家根を葺き、竹を編みて壁となし、床は土間又は蓆を敷けるものあり、フィンシユハーフェン(Finschhafen)にては木造家屋あり杙工事今尙存し水上の生活をなし、今日尙原人の風を存せり、又樹上家屋を作りて生活せるものあり、蓋し敵を防禦するにあり、地上より二五―三五尺とす。

航海には一般他の太平洋諸島と同じく獨木舟を用ひ、長さ二〇尺乃至三〇尺、樹幹の中央に凹溝を穿ち周邊に一二枚の木板を箆挿し、之れに彩畫を施せり、顛覆豫防の爲長さ十四五間の圓材を一方に置き、之れを數條の横材を以て舟に緊結せり、多くは一種にして時に二種のものあり、蓆帆を張りて航走す、又竹筏あり又椰子葉を以て舟狀の籠を作り、少年の之れに乗りて里餘の海を航するものあり。

生業は耕作にして、甘藷、サーゴ、薯芋等を耕作し、男子は土地を開墾し、女子耕作收納に従事す、又豚袋鼠を柵内に飼ひ、女子は豚を鐘愛す、又漁獵に従事するも狩獵は少し。

沿革 本島は一五二六年葡萄牙人ヨルゲ、デ、メネゼスの登見せる處にしてバプアと命名せり、一五二八年北岸に西班牙人アルバロー、デ、サーベドドラ來り、一五四四年同國人ルイ、ロペスヴィリャローボス來れり、一

六〇六年ルイス、ベースデ、トーレスはルイジアアデンを發見し、トーレス海峡を通過し本島の島性なる事を明かにせり然れども其報告は秘密にせられたり、一六〇五年ウイレンヤンス南岸を東方に航せり、一六一六年ウオター、シヨテン來り、一六九九年ウキリヤム、ダンピアア北岸及び其附近の島を訪ひたり、一七六二年英人マニラを征服して始めてトーレスの報告を發見し、一七七〇年ゼームスクック世を界週航し、再びトーレス海峡を通航して始めて其島性なる事を明にせり。

十九世紀に入りて、一八二四年八月二十四日和蘭の保護地となり、南岸にドーブス港を開きたり、次で西岸及び北岸に傳道所及び商館を建て、同國艦隊來航せり、一八八五年佛人來り、獨人亦來れり、其基督教の傳道は甚だ入り難かりしが、同教は西部に廣く傳はれり、之れより前一八八三年四月四日クインスタンドの官吏本島東部に來り、英國の所領を定めたりしが、本國政府之れを認めず、翌年十一月六日更めて南東部を保護地となせり次で北東部に獨逸國旗掲揚せられ、ビスマルク群島赤同時に同國の有となれり、一八八五年蘭獨間に、一八八六年獨英間に境界劃定せられ、爰に本島は歐の三大勢力に分割せられたり。

蘭領最も大にして、其面積四〇〇〇〇〇平方籽餘なるも、經營充分ならず、英領之れに次ぎ二二九〇〇〇平方籽あり、一八八八年九月四日直轄殖民地となり、一九〇五年オーストラリア聯邦の一州となれり、砂金採集等の鑛業者多く、農耕充分ならず。

獨逸領 本島南東部に位し、カイザールウキルヘルムランドと稱し、其面積一八二〇〇〇平方籽にして、本國プロイセンより稍小なり、東方に配列するビスマルク群島と共に一八九九年四月一日直轄殖民地となれり、人口はビスマルク群島を合して土人五三二〇〇〇あり、白人二八三人中二六四人は獨逸人なり。

ココ、椰子、ゴム樹、サーゴ等の耕地二萬餘エーカーあり、土人はコブラ、眞珠、海參等を交易す、其輸入額五八七、一八四〇マルク、輸出額五一六、三八六マルク(一九二二年)にして、輸出の大部はコブラとす。

一九二二年に於ける本島並に附近の島嶼に來港せし船舶は八四八、一八二噸にして、其主要港はビスマルク群島を合せてフリドリヒウイールヘルムハーフェン(Friedrich Wilhelmshafen) ヴルバーツハーヘン(Herbertöhe) シンプソンハーフェン(Simpsonhafen) キサ(Nusa) マツピ(Matupi) ケーウイニング(Käwieng) ナマタナイ(Namatunai) キエータ(Kieta) にして、政廳所在地はババウル(Babaul) にして、同所には無線電信あり。財政はサモア島を除き、他の全獨逸領に於て歳出入(一九二三年)三四一〇、〇〇〇マルク、内政府補助金一六五〇〇〇マルクなり。

(イ) ビスマルク群島 (Bismarck Archipelago)

位地面積 本群島は南緯〇度三〇分—南緯六度三〇分、東經一四二度より同一五四度に亘り、東方に延びて北に彎曲せる群島にして、總面積四七二〇〇平方糎、バプア島と其境界明ならず、兩者間の小島ロング島(Tonga) は本群島にバガバグ島(Bagabag) はカイザーウイールヘルムランドに屬せり。

地勢 ノイボンメルン島(二四〇〇平方糎)は弓形の島にして、北東にオッフエネ灣(Offene) 南東にヘンリーライド灣(Henry Reid) あり、此間十八糎の狭き地峽となり、ガチエレ半島(Gazelle) を作る、石灰岩廣く發育し、火山多く北部及西部に配列し、ファテル(二二〇〇米) ジュードゾーン(九〇〇米) ベロフ(六七〇米) 等の活火山あり、ダンピア海峽のラルアン島(Paluan) 亦火山島なり、本島北方に散在する佛領の火山島あり。

ノイメクレンブルグ (Neumeklenburg) 島は前者の東にありて、北に彎曲せる狭長なる島にして、面積一、二〇〇〇平方糎、長さ四〇〇糎に及び、幅七一、二四糎にして、南端稍廣く二五—五〇糎あり、山脈は島の長軸に沿ひて走る、ローゼル山脈(Rosel) と稱し、北西に延びてシュライニッツ山脈(Schleinitz) となる、北西に散在する小島は主に火山岩より成る。

ノイハノーバー (Neuhunover) 島亦大島にして、一四〇〇平方糎あり、サントウイチ島(Sandwich) 又大なり、アドミラルリテート島(Amiralität) は二〇〇〇平方糎あり、附近に散在する小島中ピンヂー島(Pindy) は磷礦を以て著る。

氣候 熱帯海洋性にして、ノイボンメルン島のヘルバーツハーヘン(Herbertöhe) に於て二年間の平均氣温は一月攝氏二六度一、七月攝氏二五度二、最高平均攝氏三三度七、最低平均攝氏一九、八なり、一日中午前十時—十一時の間最高なり、五月又は六月より十一月まで南東貿易風の季節にして雨多く、他は北西季節風の季節にして、一般に乾期とす。

生物はバプア島に同じく主要産物又同じく、コブラ、綿、珈琲、ゴム等にして此等の栽培奨励せらる。

沿革 一六一六年マイレ及びビショテンの來航を最初とし、一六四三年タスマン來り、一七〇〇年ダンピア來る、ノイボンメルン島をニューブリテン (New Britain) 島と命名せり、一八八年獨逸保護地となる。

(ト) サロモ群島

位置面積 バプア島の南東に配列する群島にして、南緯五度—南緯一〇度、東經一五四度—東經一六二度半に至る、總面積二一六〇〇平方糎の内獨逸領は僅かに一〇〇〇〇平方糎にして、ブーゲンビル島(Bougainville)

inville) バカ島 (Buka)、ニサウ島 (Nissau) 其他二三の小島之なり、バルビ (Balbi)、山は活火山にして、三一七〇米あり、人口六萬、コブラ、鼈甲、落花生等を産す。

結 論

太平洋中に散在する諸島は獨逸領の外に、英、佛、米の列強の有たり、バナマ運河開通の今日將に交通頻繁ならんとし、此等諸島中交通の要衝たらんとするもの少なからず。

今次の歐洲大戰亂は遠く東洋に波及し、我陸海の威力は北に青島を陥れ、南に赤道以北の獨逸領南洋諸島を占領せし結果は我國民の南洋に對する注意を喚起するに至れり。

我軍の南洋に於ける獨逸領の占領が、其一時軍事的なると永久的なるかの問題は茲に論せざるも我が國人の經濟上に學問上に之れを研究するに好時期たり。其豊富なる熱帶産物は我實業家の經營を迎ふべく、又氣象、生物、珊瑚礁、火山、住民等數へ來らば我學者の研究に待つもの甚だ多し、茲に本稿の筆を擱きて我探究家の精確なる報告の速かに公にせられん事を熱望す。(完)

參 考 書

- Sievers-Kükenthal: Australien and Polarländer.
Dulllemard: Austrasia
Customs of the World

學 級 教 育 の 能 率

エフ・ロセン

文科三年 伊 藤 久 也

私は昨年十二月の Educational Review に出された Paul Klapper 氏の Efficiency of class instruction といふ論文の概要を報告したいと思ひます。この仕事は武川、中村、鈴木の三人と私とでしたのでありますが私が代つて申し上げます。昨年あたりからしきりにエフ・ロセンといふ語が聞えてをりまして遞信省では仕事のエフ・ロセンの増進法を特別に調査して居られます。今日の心理研究や實業の日本にもこの學説が出て居ります。教育の方ではあまり澤山見あたりませんが教育上の新思潮のやうに見えます。よつてこの論文の概要を申し上げて見たいと思ふのであります。これから話しの中に申します私と我々といふ第一人稱の語はクラツパー氏の語そのまゝに用ゐるのであります。

一

近頃工業や教育の論文等に使用してある Efficiency と云ふ言葉は、實は昔からある考ではあるが唯この字を新意義で用ひたに過ぎぬ。通常の間人は自分で意識してゐる人もあらうし、又自分で意識してない人もあらうが、皆自己の努力の結果が最大の Efficiency に達せんと努めてゐるのである。人間の慾望は範圍が廣く且つ限りなく増加して行くものであるけれど人間の精力には限りがあるものである。吾々の精力を充分よく加減して之を保存しなければ、吾々の背後には絶えず要求が壓迫して來るので、終には精力を消耗し盡して了ふやうになる。印度人のやうな無知の間人でさへ弓に矢を番へて目的物に向ふ時には、自分と目的物との